

子どもたちの未来に輝く光を・・・

映画

君の笑顔に会いたくて

企画書

映画「君の笑顔に会いたくて」製作委員会

制作 株式会社アルファワン

配給 協同組合ジャパン・スローシネマ・ネットワーク（略称JSN）

製作意図

親による虐待や子殺し、子どもたちの貧困といじめ、そして子どもたちを取りまく孤独…まるで子どもたちの未来に赤信号が灯ってしまった様な現代社会…。

子どもたちの健やかな成長が、地域社会と国の未来の最低条件であるとしたなら、この状況は国の未来の危機と云いかえても過言ではないかも知れないのです。

こんな時代に、それでもひたすらに子どもたちのそばに寄り添いながら、その健やかな未来を願って活動する一人の女性が居ます。

宮城県名取市在住の保護司、大沼えり子さんです。

大沼さんは保護司となって、心ならずも犯罪を犯しながらもそこから立ち直り、新たな未来を目指して苦悩する子どもたちと向かい合うことになりました。

そして、その犯罪の根底にあるものが、又その更生を困難にさせているものが「地域社会と家族の崩壊」にあることに気づいた彼女は、全力をあげてその更生を実現するべく長年に亘って努力を続けて来たのでした。

そして、一人…又一人と、子どもたちは忘れていた笑顔を取り戻し、彼女の手から、新たな未来に向けて巣立って行きました。

こんな「人としての愛に根差した」彼女の活動は、いつの間にか多くの方々の共感となり、彼女の周りには心やさしき人々が集い、立ち直りを支える大きな人のかたまりともなっていたのでした。

大沼さんをモデルに製作しようとする映画「君の笑顔にあいたくて」（仮題）は、こんな彼女の活動と、そこから生まれる苦悩と喜びを通して、子どもたちのこころといのちを守り、笑顔輝く未来を語ろうとするものです。

又、この作品の完成後の全国公開は、ご賛同の方々の手を携えた「地域運動」として全国津々浦々にまで展開し、そこから「地域社会と家族の再生」を誇り高く語ってゆきたいと願っております。

こんな私共の願いにどうぞあなたの手を重ねてください。

一本の映画の製作と上映が、子どもたちの健やかな未来を切り拓くことを信じて…。

もうひとつの製作意図 ～この作品と東日本大震災～

この映画製作の企画を語ろうとした時、2011年3月11日東日本一帯を襲ったあの
大惨禍を抜きにして語れないのは、原作者大沼さんがお住まいの地が、被災地宮
城県名取市であったことによるのです。

あの日の直後、大沼さんのお姿は名取市の沿岸閑上地区にありました。

そして、そこで彼女は言葉には到底表すことの出来ない惨状を目の当たりにするこ
とになりました。

今までそこにあった筈の、しごく当たり前の家族や生活が突然にして破壊され、そ
してかけがえのない沢山の命が奪われて行った惨状を…。

これまで10数年にわたって大沼さんは、宮城県はもとより全国にわたっての電話
やメールでのご相談活動を行って来ましたが、あの日以降は、今は亡き家族や友人
を思って立ち直れない方々からの震災関連のご相談が相次ぎ、24時間対応のご活
動に奔走されていました。

そして、そんなご相談者のお一人に、無念にも津波でその命を奪われた我が子の
死を受け入れがたく、いまだにお線香もあげる事の出来ない一人のお母様が居たの
でした。

この作品のメインテーマは「更生保護のこころ」を語ろうとするもので、東日本大
震災そのものを描こうとするものではありませんし、大沼さんもここに作品が深く踏み
込むことへの危惧も感じておいででしたが、大沼さんとの幾度にもわたる議論の上で、
この映画の中の登場人物の一人に、お母様のご了承もいただき、今は亡きご子息の
お名前を使わせていただくことにしたのでした。

あの日、不幸にも奪われた一人の子ども命が、この作品の中で新たな光となっ
て生き続けることを願って…。

そして、あの惨禍をのりこえ、国中の子どもたちの命が、その未来に大きな輝
きを放つことも願って…。

大沼えり子さん

実は、仮退院の許可が下りて、もう出院しているはずなのに、いつまでも院内DJ にリクエストをくれる子がいて、おかしいなと思ったことがあって・・・。尋ねると、親とかの引受人や引受先がないと、少年院から出られないんだそうで、そういう子供たちをひとりでも多く仮退院させるための、引受先になる拠点、帰る場所のない少年たちの帰る家を作って、子供たちがたーくさん笑って、家族ってこんなに楽しいって、幸せを知らない子供たちが、少しでも幸せだ！生きててよかった！って思える。そんな家を絶対に作りたいの！それが私の大きな大きな夢です。

プロフィール

2011年3月11日、宮城県名取市で東日本大震災を体験し、被災者であり、復興活動支援者である。

1957年3月 宮城県生まれ。二児の母。O型。

大学在学中から東京、仙台を中心に、シンガーソングライター DJ、として活躍。結婚後、嫁ぎ先の割烹の若女将の仕事をごなしつつ、2001年保護司の委託を受ける。依頼子どもたちの更生に尽力する傍ら DJ ロージーとして東北地方にある3つの少年院に向けて院内放送「カントリーボーイ」を制作し、同録を送り続けているかたわら少年の自立を支援する認定 NPO 法人「Rosy Bell」の代表を務める。

著書には 2007 年に「この想いを伝えて・・・」を出版。この作品を原案としてスペシャルドラマ『ガラスの牙』が 2007 年日本民間放送連盟テレビドラマ部門最優秀賞。2008 年「君の笑顔に会いたくて」を出版。この 2 作品を原作として 2010 年 3 月曜ゴールデンにて 2 時間ドラマ「ガラスの牙」が放送され話題をよぶ。



保護司とは

何らかの理由により不幸にして非行や犯罪に陥ってしまった
12歳少年から高齢者までの犯罪者の更生と円滑な社会復帰へのサポートや
犯罪予防のための啓発に努めることを使命とする
無償の非常勤国家公務員である。

「ロージーハウス」の建設と運営に皆様のお力をお貸してください。

この映画の原作者大沼えり子さんは 2001 年保護司になりました。

そして、この年の少年院の参観で、少年たちがその更生に向かおうとする姿に触れ、大きな感銘を受けたのでした。

彼らのために何かしなければ…、そう思った大沼さんは、以前経験のあった DJ 番組を製作し、施設の中の少年達に「ここからここへのプレゼント」として届けることを決意したのでした。

そんな彼女の思いは、幸い多くの方々の共感となり、それ以来毎月一時間の番組を、15 年にわたって東北・北海道の 3 少年院に送り届けて来ました。

そんな彼女のもとに一通の手紙が、少年院在院中の少年から届けられました。

その手紙は、引受人や引受先がないため、少年院からの仮退院時期が 1 年経過しても出院できずにいる少年からのものでした。

彼は、“僕には家族がいません…誰も頼る人がいないのです…”と書き綴っていました。

そして最後に彼は、“それでも僕は頑張ります…”こんな言葉でこの手紙を終えていました。

大沼さんは、この手紙を通して、このような少年がいることを、そして彼に止らず他にもこんな境遇に置かれた少年達が多くいることを知りました。

この現実、彼女に大きな衝撃を与えました。

その時以来大沼さんは、「この子たちの帰ってくる家を建てたい…」「故郷を持たない彼らの故郷をつくりたい…

そんな思いを胸の中に大きく膨らませていったのでした。

そして、そんな大沼さんの一人の思いから始まった願いは、いつの間にか多くの方々の願いとなって育ち、2009 年「NPO 法人ロージーベル」の立ち上げとなり、震災の年 2011 年「少年の家・ロージーハウス」のオープンとなってその実を結ぶこととなったのでした。

しかしながらその思いとは裏腹に、その運営は大変厳しく、又いろいろな事情もあり「ハウス」の新たな建設も必要となっています。

私達、映画製作委員会と JSN は、「更生保護のこころ」を語ろうとするこの映画を全国数多くの方々の胸にお届けし、その輪が更には大沼さん達の掲げる「ロージーハウス」の夢を支える力ともなって行けば幸いと願っております。

あらすじ

宮城県名取市に住む松浦香苗は、夫と一緒に街で小さな食堂を営む傍ら、保護司として心ならずも罪を犯してしまった子どもたちの、社会での立ち直りを支援する活動をしていた。

子どもたちの健やかな未来を願う香苗であったが、子どもたちの更生への社会の不理解や、子どもたちを守るべき家庭の崩壊の現実にも出会い、たくさんの悩みを抱えながらの活動だった。

そんな折、香苗に保護観察所から一人の保護観察中の少年の担当が依頼された。

啓太・・・5年前の津波で命を失った香苗の息子が、子どもの頃親友として交わっていた少年だった。

事業に失敗した父親は、啓太を連れて夜逃げ同然にこの街を去ってしまい、それ以降は音信も途絶えていたのだ。

一見すっかり荒れた姿で香苗の前に現れた啓太だったが、その瞳の中に救いを求める光を見た香苗は、家族同然の対応で啓太を迎えるのだった。

日一日と、香苗とその家族の支えで、かつての自らを取り戻しつつある啓太だったが、父親の借金返済のため再度盗みに手を染めてしまった。

そして、全てに絶望した啓太は、香苗の息子の命を奪った閑上の海に自らの命を絶とうと決意して、沖へ向かって歩き始めるのだった。

きっとこの海に啓太は居る・・・そう信じた香苗は閑上の海に啓太を見つけ、力いっぱい啓太を抱きしめて心の底から叫ぶのだった。生きて!生きて!生きて!

そして3年が過ぎていった・・・香苗のもとに足を運ぶ刑期を終えた啓太の姿があった。

自らの新たな出発を香苗に誓うために・・・。

そんな二人を満開の桜が、ほほ笑む様に見つめていた・・・・・・。

製作概要

メインスタッフ

製作	映画「君の笑顔に会いたくて」製作委員会
原作 ゼネラルプロデューサー	大沼 えり子
エグゼクティブプロデューサー	鳥居 明夫
プロデューサー	恩田 真弓
監督	植田 中
脚本	西井 史子
配給	協同組合 ジャパン・スローシネマ・ネットワーク

キャスト

| 洞口 依子 | 筧 利夫 | 石丸 謙二郎 | かとうかずこ |
| 雛形 あきこ | 五代 高之 |

製作公開スケジュール

- 2015年 9月** 製作企画スタート
- 2016年 6月** シナリオハンティング
シナリオ 着手
- 10月** シナリオ決定稿
出演者オーディション
- 11月** メインキャスト決定
- 2017年 3月** 製作上映を支える宮城県民の会 発足
- 4月** クランクイン
- 5月** クランクアップ
- 7月** 完成
- 9月** 宮城県先行公開

全国公開について

<スローシネマ方式>

閉塞感でいっぱいになってしまった様な現代社会に、もう一度人と人との心を通わせ、「地域社会と家族の再生」を計ろうとするこの映画の公開にあたっては、今や大都市圏だけになってしまった映画館のみによらずに、映画館がその姿を消した小さな市や町そして村にまでていねいに時間をかけながら拡げて行きたいと思っております。

映画の上映にご賛同の方々の手と手をつないだ「地域運動」としての上映方式を私たちは「スローシネマ方式」と名付け、これまでも全国数百カ所に及ぶ上映を展開して参りました。

「君の笑顔に会いたくて」公開にあたっては

全国500カ所 観客数20万人

を目標に進めて参ります。

<公開スケジュール>

2017年 9月 全国先行公開（宮城県）

11月 東京・大阪・名古屋 劇場公開
スローシネマ方式での全国上映スタート

<ご連絡先>

協同組合 ジャパン・スローシネマ・ネットワーク

〒980-0014

宮城県仙台市青葉区本町 2-17-2 ラ・セーヌビル3F（シネマとうほく内）

TEL. 022-225-0986